

学校法人向洋学園 宮崎ビジネス公務員専門学校			
授業科目名	裁判法	担当者名	前田 裕司
開講年度・学期	2025年度 通年		
学科	大学進学科	年次	2年次
年間授業時間および単位数	週：2時間 合計：80時間	単位数：4	
科目区分	必修	授業形式	講義
実務経験	《関連実務経験等》 有		
授業の概要（実務経験を活かした教育内容）	法律実務手続に関する入門講座としての位置付けの下、近畿大学指定の教科書を用いながら、毎回のミニテストや年2回程度の裁判員裁判関係のDVDの鑑賞等を織り込んで、現実の裁判に対する理解を深め、法律概念と法律知識の習得を目指す。講師の長年の弁護士経験及び実務と理論の架橋と位置付けられた法科大学院での10年の教員経験を活かし、実務に即した授業を行う。		
授業の到達目標	(1) 実務を知り法律用語や法律概念を理解し説明できること (2) リーガルマインド（法的バランス感覚）を養成すること		
授業計画	01～18 法と裁判の役割 19～30 民事裁判の仕組 31～32 行政裁判の仕組	33～42 刑事裁判の仕組 43～48 憲法裁判の状況 49～80 文書作成、終了試験	
成績評価の方法	科目修了時の試験や小テスト、出席状況にて評価する。 評価比率（科目修了試験や小テスト等70%、出席状況30%） 成績評価の基準は5段階評価とする。 5（80点以上）、4（60点以上80点未満）、3（40点以上60点未満）、2（20点以上40点未満）、1（0点以上20点未満） 2や1の評定が出た場合は補講を行う。		
授業外で行うべき学修（準備学習・事後学習等）	日々の裁判関係のニュースをチェックする。 ミニテストで分からなかったところを教科書で調べる。		
使用テキスト	近畿大学テキスト「現代の裁判（第7版）」市川正人、酒巻匡、山本和彦（有斐閣アルマ）		
参考書・参考資料等	新聞を毎日読み、法律家（裁判官、弁護士）の回想録（例えば、「無罪を見抜く、裁判官木谷明の生き方」）など1冊程度は目にしておくことを勧める。 新聞・法律家の書は法的素養を身に付ける上で有益である。		
その他（学生に対する要望、メッセージ）	社会の出来事に関心を持つことが大切である。		